

⑥金沢の自転車施策における10年のあゆみ

受賞機関 金沢自転車ネットワーク協議会
(金沢河川国道事務所・石川県・金沢市)

キーワード 自転車利用環境の改善、連携と協働、金沢方式

全建賞審査委員会の評価ポイント

全国に先駆けて行われてきた金沢市での自転車通行区間の整備について、この10年の軌跡を冊子にとりまとめた取組み。自転車通行空間整備、自転車のルール・マナー周知の取組などハード・ソフト両面から実施した結果、10年間で、自転車通行空間の延長は約33km、自転車関連事故が65%削減、車道左側通行の意識も約44ポイント増加するなど、大きな効果を発揮している点が評価された。

1. はじめに

金沢市は、これまで大きな災害や戦災を免れており、城下町特有の狭い道路空間を有するため、歩行者や自転車が通行するにあたり危険な箇所が多く、安全な通行環境の整備が課題であった。金沢河川国道事務所が金沢市に拠点を置く市民団体「地球の友・金沢」と協力し、具体的にどこを改善すべきなのか把握。当時広まりつつあった住民参加の手法を活かした事業計画を行うことにより、自転車施策を進めていく契機となった。

2. 事業の概要

車道混在として自転車の通行位置を示し、クルマに自転車の存在を注意喚起する路面表示は、2007年に国によって実施された「バスレーンでの自転車走行指導帯の整備」が皮切りとなり、金沢市内の各道路管理者が管理する道路で同様の整備が開始された。これを受け、2011年に、学識者、道路管理者(国・県・市)、警察(県警、所轄警察署)が実務者レベルで一体となり、意見交換や情報共有を図る組織である「金沢自転車ネットワーク協議会」を設立した。「歩行者・自転車・クルマのそれぞれが、安全に安心して通行できる“人中心”の道路交通環境の創出」を基本理念に、ガイドラインの策定、ネットワークの形成、関係者との合意形成を重視した自転車通行空間の整備を行ってきた。また、自転車のルールやマナーを広く周知する広報活動や、街頭指導も継続的に実施し、ハード整備の効果を高めた。

この10年のあゆみを「黎明期」・「構築期」・「推進期」の3つの時期にわけて振り返り、金沢での取組みのポイント等を体系的にとりまとめた10年誌を作成した。



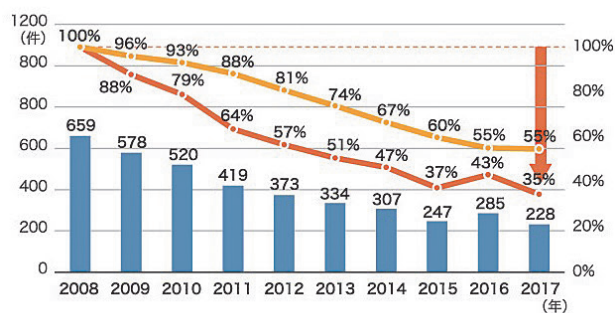
県道における自転車走行指導帯の整備(2015年)

3. 事業の成果

10年間にわたる自転車利用環境整備を通じて、継続的・効果的な自転車施策の展開を行ってきた。

金沢市の自転車関連事故の2008年から2017年の推移では、事故発生率が全国平均値よりも約20ポイント下回るといった定量的な効果も出ている。

▼金沢市内における自転車関連事故の推移



■事故件数(金沢市) ■事故発生率(金沢市) ■事故発生率(全国)
金沢市内における自転車関連事故の推移

また、自転車施策の関係者が一堂に会し、連携、情報共有、合意形成を図る金沢自転車ネットワーク協議会の仕組みは、金沢方式とも呼ばれ、先進的なものとなっている。

4. おわりに

金沢の自転車施策が本格指導してから10年が経過したことを機に、連携と協働の記録を10年のあゆみとして編纂した。この記録が今後、自転車施策を取り組む県内外の自治体へ参考となり、さらに金沢の新たな自転車施策の展開につないでいけることを期待している。